

インターネット時代における 図書館協会のサービスの变化

杏林大学医学図書館

児玉 寛

kodamat@lib.kyorin-u.ac.jp

概要

- 西地区の活動の現状
- JMLAの活動の現状
- まとめ

西地区

- 東京西地区大学図書館相互協力連絡会
- 歴史：
 - ICU、成蹊大、東京女子大、東経大で31館に趣意書を配布
 - 結成準備会、連絡会を経て、1973年に第1回の定例会を開催
 - 1983年に要綱を制定し、現在のスタイルとなった

西地区

- 目的：
 - 本会は、東京西地区に所在する大学（短期大学を除く）に設置された図書館の相互協力の進展を図ることを目的とする。（要綱第2条）
 - 1983年4月1日から施行。その後2度改正され、現在のものは1998年4月1日から施行されている。

西地区

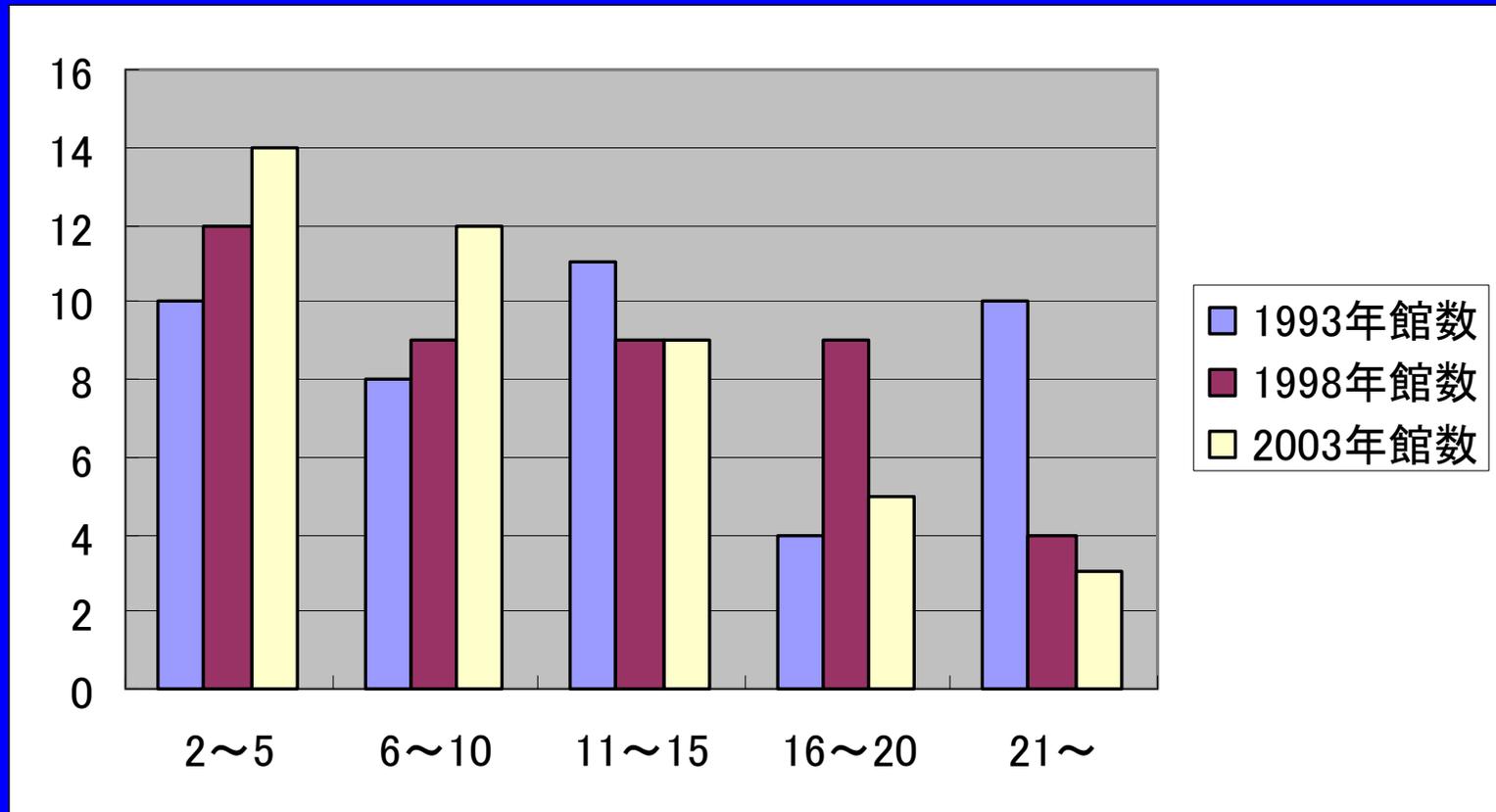
- 加盟館数：
 - 44館(2004年4月1日現在)
- 館員数：
 - 712人/43館(出典:日本の図書館 2003)
- 範囲:東京・多摩地区の大学図書館
- 種類:地域的コンソーシアム

西地区館員数

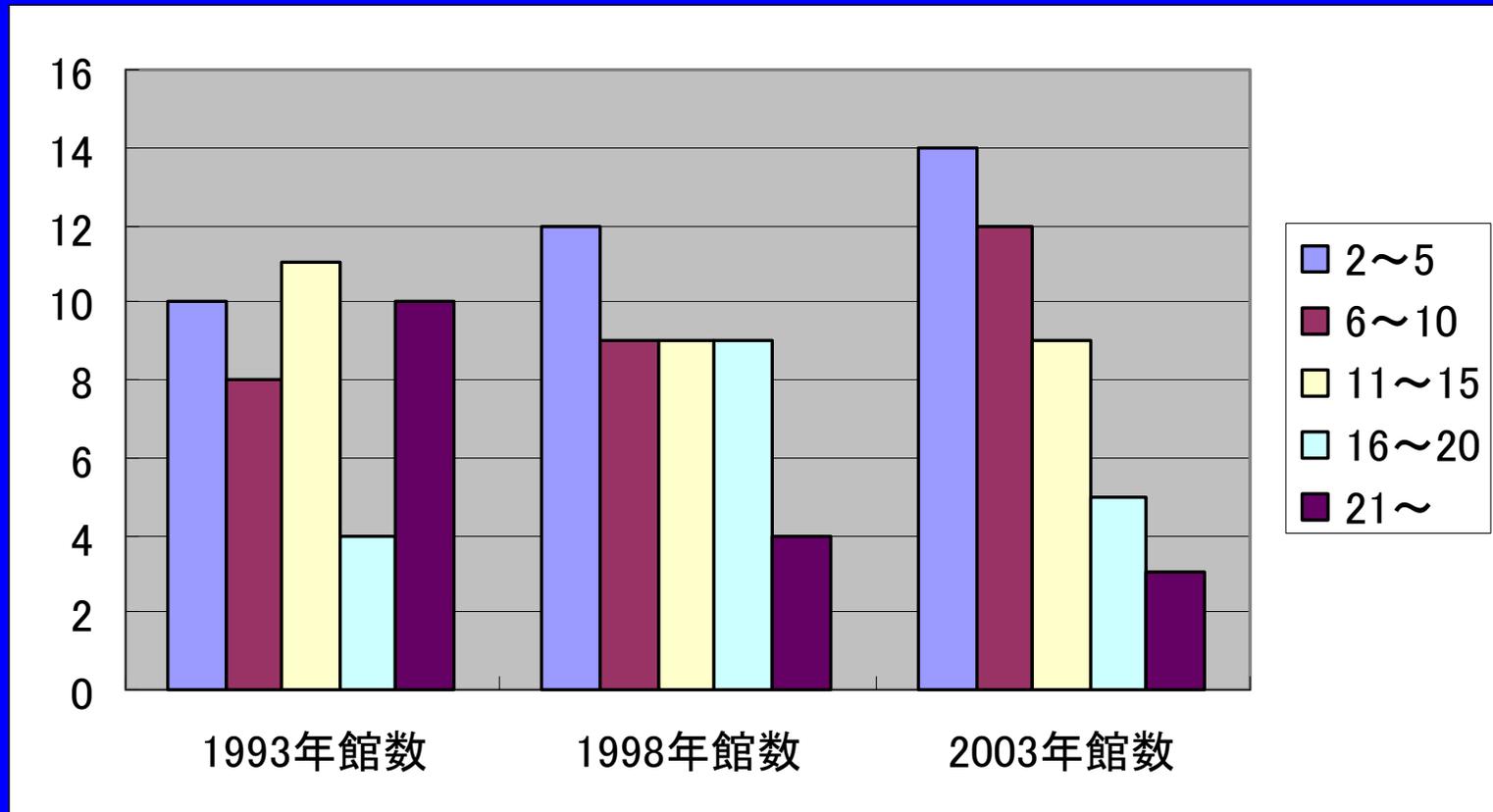
- 館員数(専任):
 - 最大36人 (1館) 3館 > 20人
 - 最少2人 (3館) 14館 ≤ 5人
 - 平均10.28人 (442人/43館)
- 館員数(専任+兼務+非常勤・臨時):
 - 最大53.4人 (1館) 16館 > 20人
 - 最少3.0人 (1館) 6館 ≤ 5人
 - 平均16.6人 (712人/43館)

(出典:日本の図書館2003)

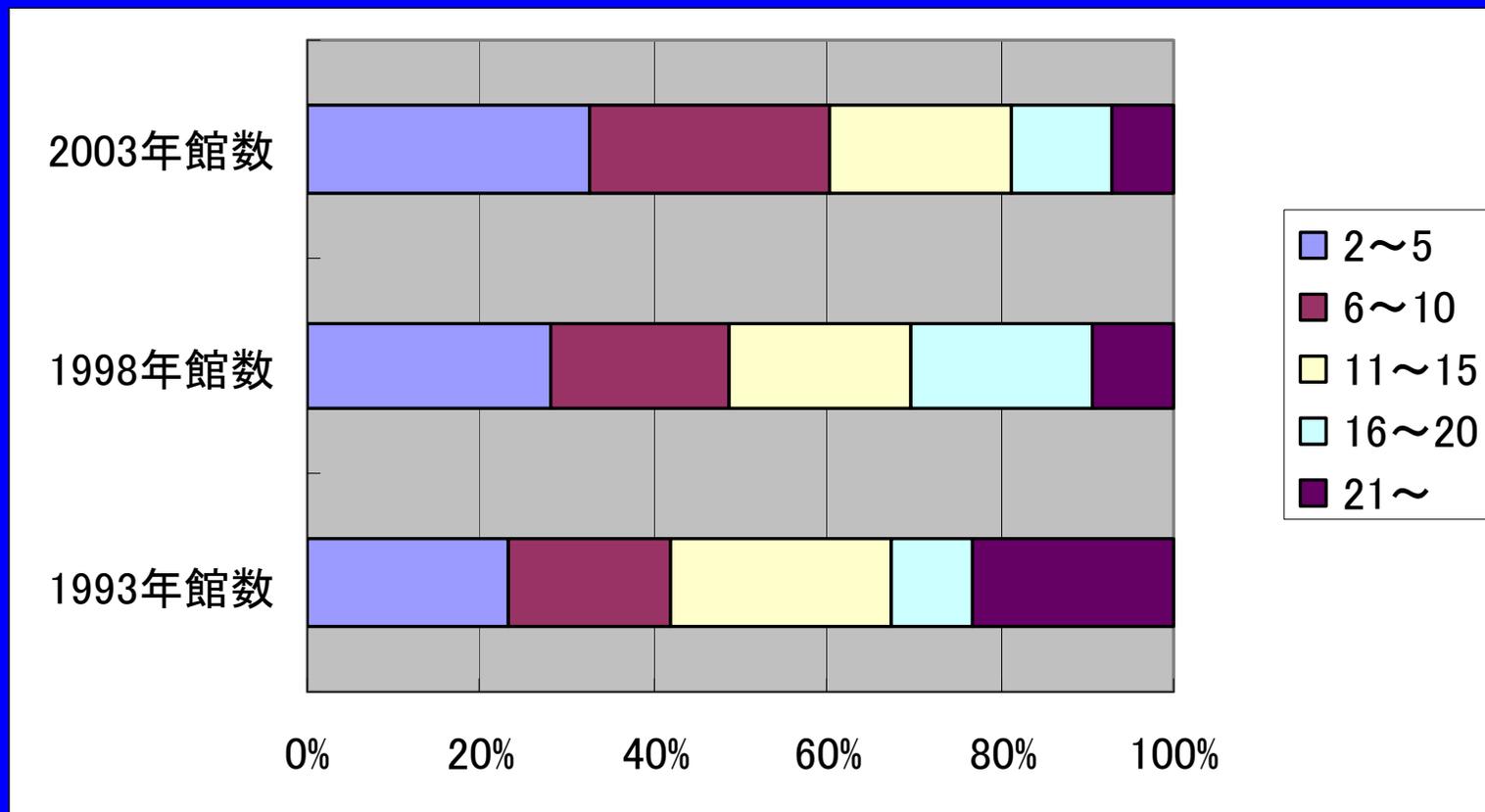
西地区館員数(専任)の変遷1



西地区館員数(専任)の変遷2



西地区館員数(専任)の変遷3



西地区の運営組織

- 役員館
 - 幹事館、副幹事館、実務担当者会議担当館、
会計、監査
- 加盟館会議
- 実務担当者会議

西地区の活動

- 相互協力
 - 複写、現物貸出、直接閲覧
- 便覧の作成
 - 冊子体の発行、電子版の管理
- 外国新聞の共同保存
 - 保存協定、目録作成
- ホームページ
- メーリングリスト

西地区の活動

- 電子資料に関するコンソーシアム検討委員会
- 研修セミナー
- 相互利用統計
- 夏季開館スケジュール

西地区活動の現状

相互協力 -複写、現物貸出、直接閲覧	NII
便覧の作成 -冊子体の発行、電子版の管理	ホームページ
外国新聞の共同保存 -保存協定、目録作成	NII
ホームページ	
メーリングリスト	
電子資料に関する コンソーシアム検討委員会	地域的コンソーシアムの限界？
研修セミナー	
相互利用統計	NII
夏季開館スケジュール	ホームページ

【会 議】
 加盟館会議
 実務担当者会議

西地区の問題点

- 大学冬の時代
 - 少子化＋不景気→予算削減、人員削減
 - 参加できない、手伝えない→活動できない
 - 活動できない→メリットがつかれない
 - 活動がない→集まる意味がない
 - 会議は仕事を押し付けるための「手続き論」を交わす場

個人的見解 1

- 当館(杏林大学医学図書館)にとって、加盟するメリットはあるのか？
 - あるけど大きくはない。負担も考えるなら、脱退しても問題ない
- 西地区にとって、当館が加盟するメリットはあるのか？
 - 多摩地区唯一の医学図書館である

個人的見解 2

- 地域的コンソーシアムは果たして有効か？
生き残れるか？
 - OhioLink(米国)
 - 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム
 - 京阪奈ライブラリーコンソーシアム
- 西地区は老舗なのに、衰退するのはなぜか？

サービスの再検討

- 加盟するメリット
 - 加盟館に対するサービスがなければならない
- サービスする側 / サービスされる側
 - 奉仕で成り立っている協会において、サービスする側とされる側が線引きされることは疑問

これからの西地区を考えるWG

- 「これからの西地区を考えるWG」の立ち上げ
 - 自分たちを知ろう
 - 新しいサービスを考えよう
 - 全会一致：理念は評価できるが現実的でない
- サービス
 - 実現可能なもの
 - 参加できるところだけでもよい
 - 複数のサービスを提供

セミナーの開催

- 事例紹介セミナー(年3回)
 - 利用者教育
 - 電子ジャーナル利用促進のための工夫
 - 開かれた図書館
- 研修セミナー(年1回)
 - 学術雑誌の未来-提供方法とサービス向上について(2002年)
 - e-Learning時代の大学図書館(2003年)

セミナーの開催

- 事例紹介セミナー
 - 加盟館員だけのセミナー
 - お手軽、お気軽な情報交換の場
 - 数名(5人程度)でOK
- 研修セミナー
 - 西地区を対外的にアピールする場
 - 西地区の知名度をあげる→加盟館の意識が変わる
 - 地区外との交流→刺激を与える、刺激を受ける

好影響？

- 加盟館会議後の簡単な講演会
 - 国立大学の独立行政法人化の動向
 - Nacsis-ILLの料金相殺参加について

成果

- 事例紹介セミナー
 - 西地区の活動に出て、初めてよかったと思えた
 - 継続を希望する声が多かった
- 担当の問題
 - 協力者の出現

マイナス志向的発想

- サービスすることは損、サービスを受けるのは得
- 人が減った→忙しい→手伝えない、参加できない

サービスのメリット

- サービスを提供することのメリット
 - 人を育てる
 - 情報、機会、新しい人間関係を獲得できる
 - 普段できない経験ができる
- そこから導かれるもの
 - 自分自身への実り
 - 所属図書館へのフィードバック(日常業務の改善)
 - 大学へのフィードバック

西地区に求められるもの

- サービスの提供は楽ではない
 - 楽しい環境づくりが必要
 - ワイワイガヤガヤ集まってやれること
 - 他人(お互い)から学べること
 - 達成感・充実感
 - 評価すること
 - 評価する場を設けること
 - 方針の伝達
 - 後継者育成(仲間づくり)

JMLA

- 特定非営利活動法人日本医学図書館協会
- 歴史：
 - 1927年11月10日/11日 官立医科大学附属図書館協議会を創設。新潟、岡山、千葉、金沢、長崎の5館が参加
 - 1929年 医科大学附属図書館協議会
 - 1949年 日本医学図書館協議会
 - 1954年 日本図書館協会
 - 2003年11月20日 NPO日本医学図書館協会

JMLA

- 目的：
 - 本会は医学図書館事業の振興を図り、医学の進歩発達に寄与することを目的とする。(1954年会則第3条)
 - 本会は、保健・医療その他関連領域の図書館事業の振興並びに情報の流通に関する調査、研究及び開発を推進することによって、図書館を利用するものがより広く、高度の知識を習得できるようにし、もって保健・医療その他関連領域の進歩発展に寄与することを目的とする。(NPO日本図書館協会定款第3条)

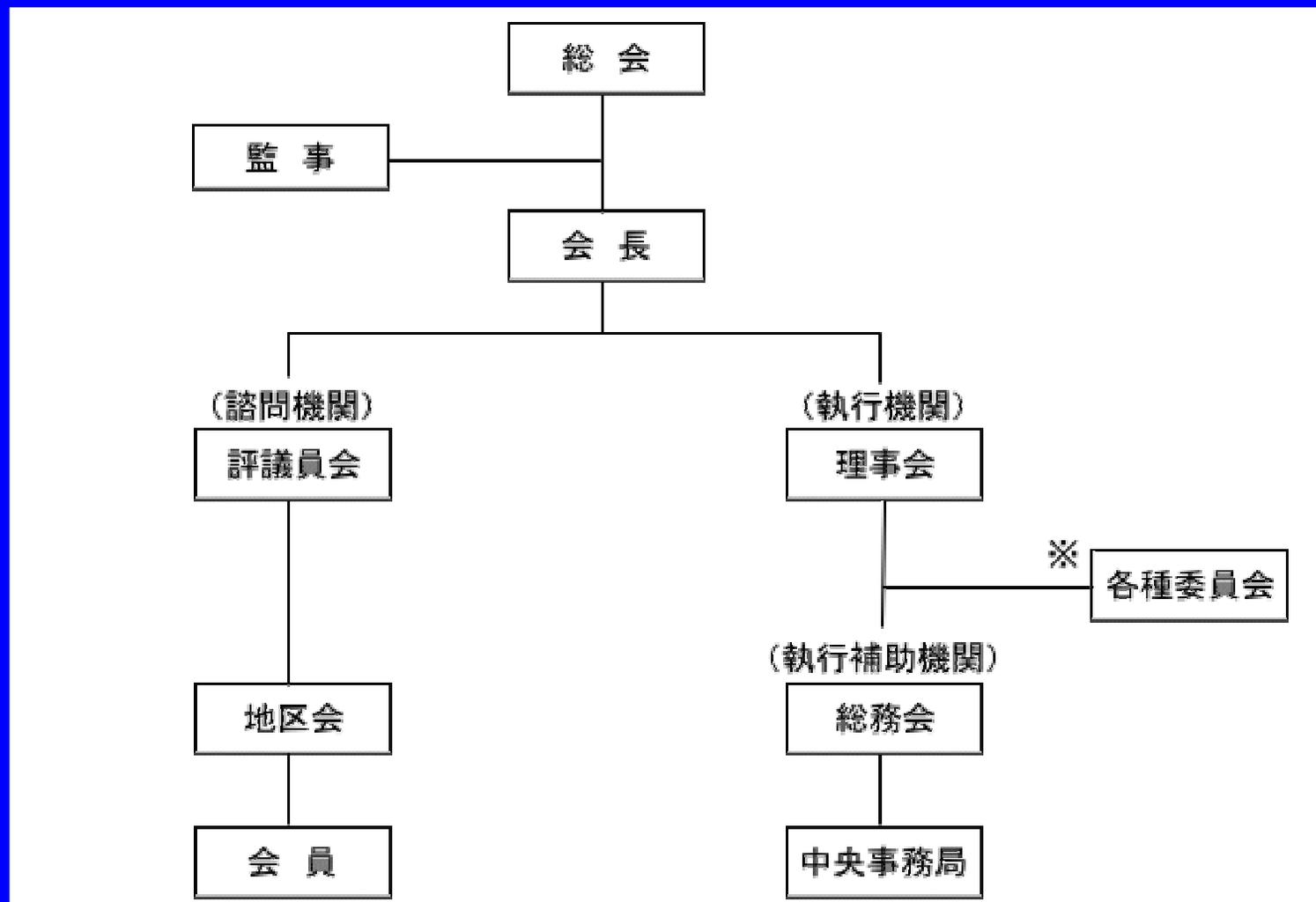
JMLAの行う事業(2003年版)

- 保健・医療関連図書館に関する調査、研究並びに開発
- 機関誌及び刊行物の発行
- ホームページによる広報
- 保健・医療関連図書館及びその蔵書に関する情報の収集、提供、相互利用
- 保健・医療関連図書館に関する教育普及及び認定資格事業
- 国内外の関連機関、団体との交流、協力提携及び共同事業の推進
- その他目的を達成するために必要な事業

JMLA

- 加盟館数：
 - 112館(2004年3月31日現在)
- 館員数：
 - 1218人/117館 平均10.95人
 - 最大 69人(1館)、30人(3館) 10館>20人
 - 最少 1人(6館) 23館 \leq 5人
(出典:JMLA第74回加盟館統計)
- 範囲:日本国内の図書館
- 種類:学術分野的コンソーシアム

JMLA 運営組織



医学図書館の性格

- 図書館員としての身分の保障→専門性
- 医学図書館＝大学図書館＋病院図書館
 - － 教育、研究、診療への奉仕
 - － 病院図書館的機能は専門性が高い
 - － 病院へのサービスを介して社会とつながっている
 - － 学問＋実務→日常的に社会的機能を果たす施設が学内にある

JMLAの活動

- 委員会

- 1. 広報委員会
- 2. 組織・制度委員会
- 3. 出版委員会
- 4. 機関誌「医学図書館」編集委員会
- 5. 企画・調査委員会
- 6. 雑誌委員会
- 7. 分担購入委員会
- 8. 教育・研究委員会
- 9. 認定資格運営委員会
- 10. 国立ライフサイエンス情報センター(仮称)推進準備委員会

JMLAの活動

- ワーキンググループ
 - 1. ホームページ担当
 - 2. 分担購入
- その他
 - コンソーシアム
 - 海外研修
 - 受託業務(EBMほか)
 - 相互協力

ホームページWG

- 委員は各地区から選出
 - (北海道)、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国四国、(九州)
 - 委員会は年1回
 - 通常は、メールでやり取り
 - コーナーごとに担当を決定
 - 役割は、記録、伝達、コミュニケーション、発信
 - 情報格差の解消を目指す

認定資格制度

- ヘルスサイエンス情報専門員
- ヘルスサイエンス分野の図書館等の情報サービス機関に勤務し、保健・医療情報に関する専門知識・技能を有している方を、本協会が認定するもの
- 保健・医療情報の専門家としてキャリアアップしたい方、情報サービス機関の諸活動に積極的に貢献していく意志のある方は是非ご申請ください

認定資格制度

第1回認定結果

級	認定数	申請数
初級	17	16
中級	12	12
上級	32	32
合計	61	60

- MLA、認定医制度と同じ
- 資格やポイントを活用できる場が必要

JMLAの活動の分析

- 相互協力は前提(当然、問わない)
- お互いの資質の向上を目指す(教育)
 - 研修会、研究会、研究助成、機関誌
- 業績の評価
 - 認定資格
- 医学図書館員
 - 所属機関の職員
 - 協会の構成員
- 協会に入っているメリットは何？

JMLAの活動の問題点

- 医学図書館員とは...？
 - 所属機関の職員 or 協会の構成員
 - 協会からのフィードバックがある or 必要
- 協会に入っているメリットは何？
 - 加盟館でなくても受けられるサービスが多い
 - 国立大学の脱退

JMLAに求められるもの

- 医療、医学教育とのさらなる連携
- 認定資格制度の活性化
- 国立医学図書館の実現

- 活動の柱はほぼ揃っている
- 組織や活動の細部の見直しが必要

インターネット

- 情報インフラ
- 情報流通の革命的存在(容易、速報性)
- 価値観の変化
 - 有料→無料
 - 存在しなかったもの→存在
 - 情報過多による価値観の分散
- インターネットの登場により、あらゆるものの淘汰がはじまっている

インターネットの影響

- ローカル→情報の共有→サービスの共有
 - 書誌情報
 - 図書館システム
 - ICチップ
 - 電子図書館
 - 電子ジャーナル
 - コンソーシアム

インターネット時代の対応

- 主体は人
 - サービスを受ける側：人
 - サービスを提供する側：人
 - パソコン、インターネットはツールにすぎない
 - ツールを効果的にうまく活用することが重要
- サービスの共有
 - × やることがなくなる、図書館不要？
 - ◎ 新しいことができる、さらなる展開がある

インターネット時代の協会

- 協会は不要？
 - 解散しても、また新しい結合が誕生する
- 協会の果たすべき役割
 - 価値観の分散→的確な方向性の示唆
 - 参加するメリット、将来性
 - 協会が一步先を行って、加盟館を新しいことにナビゲートすることが必要
 - インターネットをツールとして効果的に活用

まとめ

- 西地区
 - NII、インターネットのあおりを受けて転覆寸前
 - 共同体としての限界→活性化の模索
 - セミナー中心、サービスするメリット、参加するメリットの再確認
- JMLA
 - NII、インターネットのあおりを受ける前に方向転換
 - 専門職集団としての展開を目指す

まとめ

- インターネットの影響とその対応
 - インターネットの登場による変化
 - 情報の共有、サービスの共有
 - 主体は人である
 - 協会のスタンス
 - インターネットはツール、効果的な活用
- 良いものは残る
 - 不景気でもヒット商品は必ずある

医学情報サービス研究大会

- 年1回開催
- 第21回大会 2004年7月3日～4日
国立オリンピック記念青少年総合センター
<http://mis.sinayaka.com/index.html>
- 幹事会5人＋各回の実行委員で運営
- 「個人として自由に集り、自分たちの手で研究発表と交流の場を組織する」
- Learning from each other !